

第3学年 道徳学習指導案

日 時 平成28年11月9日(水)

学 級 3年4組(男12名 女17名 計29名)

場 所 3年4組教室

指導者 吉田 寛子

1 主題名 「社会参画、公共の精神」【A-(12)】

2 資料名 「そのときー避難所になった高校で」

(復興教育副読本 いきる かかわる そなえる 岩手県教育委員会)

3 主題設定の理由

(1) 価値について

中学校の内容項目C「主として集団や社会との関わりに関すること」の(12)に「社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め、公共の精神をもってよりよい社会の実現に努めること。」とある。「社会参画の意識」とは、次の内容項目「勤労」と相まって、共同生活を営む人々の集団である社会の一員として、その社会における様々な計画に積極的に関わろうとすることである。個人が安心・安全によりよく生活するためには、社会の形成を人任せにするのではなく、主体的に参画し、社会的な役割を果たすことが大事になる。「社会連帯の自覚」とは、社会生活において、一人一人が共に手を携え、協力し、誰もが安心して生活できる社会を作っていこうとすることである。社会の全ての人々が、自分も他人も共によりよく生きようとしていることを自覚し、互いに助け合い励まし合うという社会連帯の自覚もでてくる。「公共の精神」とは、社会全体の利益のために尽くす精神であり、政治や社会に関する豊かな知識や判断力、論理的・批判的精神をもって自ら考え、社会に主体的に参画し、公正なルールを形成し遵守する精神である。

この内容項目は、小学校高学年Cの(14)「働くことや社会に奉仕することの充実感を味わうとともに、その意義を理解し、公共のために役に立つことをすること。」を受けたものであり、中学校の内容項目Cの(13)「勤労の尊さや意義を理解し、将来の生き方について考えを深め、勤労を通じて社会に貢献すること。」と関連しているものである。

この時期の生徒たちは、社会において人間関係が希薄化する傾向が見られ、他者に対する配慮を欠き、公の場で自己中心的な言動をとってしまう生徒も少なくない。既成のものに対する反発も出てくる年代である。しかし、本来は、自己中心的で自分勝手な言動を良くないと思う心が内面には十分あり、誰もが望むよりよい社会の実現については大人よりも純粋に考えることもできる。だからこそ、

現代的な課題等も取り上げ、どのように社会に参画し、どのように連帯すべきかについて、多面的・多角的に考えを深めるようにすることが大切である。また、公共の精神を育み、人間としての生き方や社会の在り方について深く考え、よりよい民主的な社会を実現するためにはどのように社会に連帯できるかについて、多面的・多角的に話し合うことが大切である。

以上のことから、社会参画や公共の精神についての考えを深め、道徳的実践力を高めることは、大変意義あることと考える。

(2) 生徒について

昨年度から持ち上がった学級である。全体的に活気があり、好奇心が旺盛な生徒が多い。体育祭では競技のみならず、応援活動等にも一生懸命取り組み、応援賞を取った。目的を理解できると集中力が増し、大いに力を発揮する学級である。一方、物事の切り替えが遅く、徐々に改善されてきたものの、悪気なく配慮のない言葉を発してしまう生徒が見られた。係活動や掃除、全体で活動する時に、自分勝手に行動したり、自分が好まない活動には、あまり前向きになれない生徒が一部に見られ、リーダー達を困らせる場面が幾度も見られる。

だからこそ、学級活動や生徒会活動に積極的に参画する体験を通して、社会参画や社会連帯についての考えを深めることの必要性を感じている。さらに、よりよい社会を実現するためには、社会生活において互いに迷惑をかけることのないような行動の仕方を身につけるとともに、進んで社会と関わり、積極的な生き方を模索しようとする態度を育てる必要がある。そして、進んで社会的な責任を果たすために、どのような行動取るべきかを主体的考えられるようにすることが重要である。

3年生の後期に入り、高校入試に向けて、目の前の不安と戦う生徒も多く見られるようになった。ともすれば、目の前の進路や悩みに押しつぶされそうになるかもしれないが、生徒達には、未来に夢と希望をもって力強く生きて欲しいと思っている。社会生活に主体的に参画し、社会的な役割と責任を果たすことが自己肯定感が高まることにつながることに気付いて欲しいと考えている。

(3) 資料について

岩手県教育委員会編集の「いきる かかわる そなえる」に記載されている資料である。

この資料は避難所での高校生の体験から、他の人や地域社会に役立つことを自分から進んで実践し、他人に共感することの大切さについて考えることができる資料である。自分達でさえ、辛く困難な状況にあったのに、「自然に体が動き始めた」という生徒たちは、避難してきた人たちの世話を始めた。資料には、約5ヶ月間、避難所となった高校と生徒達の様子が客観的に語られており、そこで過ごす高校生達の心情は語られてはいない。だからこそ、高校生と避難所の人たちの心情を考えたり、想像したりすることで、生徒達は道徳的価値について考えることができる。先述したように、個人が安心・安全によりよく生活するためには、社会の形成を人任せにするのではなく、主体的に参画し、社会的な役割を果たすことが大事になることを捉えさせたい。

(4) 研究主題との関わり

岩手の復興プログラム」の具体の21項目との関連 ④夢や希望の大切さ・⑤やり抜く強さ

研究主題「自己肯定感をもち、復興に貢献しようとする生徒の育成
～ いのちを大切にし、郷土を理解する活動を通して ～

自己肯定感は、自己を見つめる心の動きであり、この自己を見つめる心には、自己から見た自分と他者から見た自分の二通りが考えられる。よって、自尊感情を育てるためには、自己を見つめ、自己の考えやよさに気付き、「自己を肯定的に評価できる場」と、お互いの意見を交流させながら他者の考えや気持ちから学んだり、重要な他者である友達や家族、教師から受容されたり、「他者から肯定的に評価できる場」を設定することが必要であると考え。そこで、協働的な学びの場を生かした指導の工夫を行うことにより、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、自尊感情を高めることができ、そのことが、道徳性を高めていることにつながっていくと考えた。

そこで、授業の中に以下の2つの学習活動を位置づける。

① 意見のすり合わせや多様な思考を表現し、交流する協働的な学びの場を位置づける。

本時においては、中心発問である「高校生がまわりの人たちにどんな力を与えたのか」について話し合わせることにより、地域に住む方々・社会のために進んで役割を果たそうとした高校生の行動がもたらしたもの（勇気、希望、意欲等）を十分に考えさせたい。そして、進んで社会と関わり積極的な生き方をする事の大切さについて理解させたい。

② 終末において、生徒の日常的な言動に対する価値付けの場を位置づける。

本時においては、終末に地域の方々の願いを紹介し、生徒に対する期待にふれさせることで、実践化への意欲付けを図る。

4 教材分析図

主要場面

心の動き

気付かせたいこと

主な発問

高校までの道路が津波によって運ばれた物で通行できなくなった。

- ・家に帰れない。
- ・不安だ。
- ・家族、家はどうなったのだろうか。

高校生達も、つらく悲しい立場にあったこと。

(自分達もつらいのに) 高校生達は、どうして人々のために働くようになったのか。

生徒達が自主的に避難してきた人たちの世話や手伝いを始めた。

- 自然に体が動いた。
- ・ 食事を配る
 - ・ 皿洗い
 - ・ トイレや体育館の掃除
 - ・ 困っている人のために何かしたい。
 - ・ 地域の人に恩返ししたい

「やる、やらない」ではなく、「何かをしたい」という思いだったこと。

- ・ 「だれが言い出したわけでもなく」の意味か。

高校生の働きの原動力は何だったのか。

自衛隊の支援で

- ・ 16日 電気
- ・ 17日 水道

が使えるようになった。

家を流された生徒は
住むところがない大槌
高校に引き続き住む。

高校生の働きは
まわりの人に元気や
やる気、希望を与えた
こと。

高校生の働きは、
まわりの人にどん
な力を与えたのか。

8月7日まで5
か月。
診療所、銀行等、
小さな町のように

ともに住んだ人達
と
離れるのが寂しい。
新しいスタートを
きれるのがうれしい。

家、町をなくした
人達にとって、「家」
であり「町」であった
こと。

当時、大槌高校は
人々にとって、どん
な場所だったのか。

5 本時の指導

(1) ねらい

社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め、公共の精神をもってよりよい社会の実現に努めようとする心情を育てる。

(2) 展開

| 過程 | 学習活動と主な発問 | 予想される生徒の反応 | 指導上の留意点 |
|---------------|---|---|---|
| 導入 5分 | 1 避難所になった大槌高校について知る。 | | <ul style="list-style-type: none"> 写真資料などを用いながら、避難所の様子を捉えさせ、本時の資料への方向付けをする。 |
| 展開 た | 2 資料「そのときー避難所になった高校で」を読んで話し合う。 ○高校生たちは、なぜ人々のために働くようになったのでしょうか。 | <ul style="list-style-type: none"> 困っている人を助けたい。 地域の人に恩返ししたい。 「自然に体が動き始めた」。 動かなければ気が滅入るから。 誰かのために何かをしたかった | <ul style="list-style-type: none"> 高校生たちも、被災により辛く苦しく悲しい立場にあったことを押さえ、そんな中にあっても働くようになった心の動きを捉えさせる。 学級内にも被災生徒がいることに配慮する。 |
| 展開 3 7分 | ○5ヶ月間もの長い期間にも関わらず、なぜ高校生たちは避難所で働き続けることができたでしょう。 | <ul style="list-style-type: none"> 「役に立っている」「元気づけることができている」という達成感があったから。 避難している人の笑顔に励まされたから。 やりがいを感じたから。 地域の人々、地域のために最後まで頑張りたいから。 | <ul style="list-style-type: none"> 5ヶ月間もの長い間続けることができたのは、地域の人々のためになりたいという強い気持ちがあったからということを押さえる。 |
| | ◎高校生の働きはまわりの人たちにどんな力を与えた | | <ul style="list-style-type: none"> 高校生の行動がもたらしたもの（勇気、希望、意欲等）を十分に考えさせたい。そして、進んで社会と関わ |

| | | | |
|----------------------------|---|--|--|
| | <p>のでしょう。</p> | | <p>り 積極的な生き方をすること の大切さについて理解させ たい。</p> |
| | <p>3 自己と価値を結び付けて話し合う。</p> <p>○ 地域の様々な活動に参加したことはありますか。その時の気持ちはどうでした か。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・釜石祭り ・敬老会 ・国体おもてなし特使 ・アースディ ・「役に立っている」 ・「元気づけている」という実感があつた。 ・笑顔に励まされて、やりがいを感じた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域等の様々な活動に参加した経験とその時の気持ち ち想起させることにより、 自分達の行動が社会の役に 立っていることに気付かせ る。 |
| <p>終 末 8 分</p> | <p>4 教師の説話を聞く</p> | | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人的心愿を紹介し、 進んで社会の様々なことに 関わり役割を果たすこと が、よりよい社会の実現に つながることに触れ、望ま しい行動への意識化を図っ てまとめる。 |